

町の余白を魅力に変える ～それが「職人型町おこし」



吉田 章彦 (よしだ あきひと)

1986年生まれ。愛知県から移住。和太鼓・尺八のプロ演奏家として活動した後、長野県立上松技術専門校で家具製作を学び、独立。愛知県で家具工房を運営する。2024年3月に上砂川町へ移住し、地域おこし協力隊に就任。2026年4月に「木と革のnanairo」を設立。

【北海道移住を決めた理由】

愛知県で家具工房を営む一方、「いつか生涯を過ごす場所を選ぶなら、北海道にしたい」という思いを抱いていました。その後、妻の仕事が一区切りを迎えたことをきっかけに、広大な自然のなかでものづくりをしながら暮らすという長年の夢を実現するため、愛犬とともに北海道への移住と工房の移転を決意しました。

移住を考えるなかで、単に製作拠点を北海道へ移すのではなく、「ものづくりを通して、地域に新しい魅力を生み出せる場所」を探していました。そこで出会ったのが、地域おこし協力隊という制度です。職人としての技術や発想を活かしながら、行政や地域の皆さんとともにまちづくりに取り組めることに魅力を感じました。さらに、自ら企画・提案しながら活動できる、自由度の高いフリーミッション型を採用していた上砂川町であれば、自分が思い描くものづくりを地域とともに実現できると考え、この町で活動していくことを決意しました。

【職人型町おこしという考え方】

地域おこし協力隊として活動するなかで、私が気づいたことがあります。それは、職人が地方へ移住することで、その地域に新しい魅力が生まれるということです。職人がいれば、ものづくりが生まれる。ものづくりが体験を生み、体験が教育へと広がる。そして人が集まり、やがて町の魅力になっていく。だからこそ、もともと木工や革製品づくりが盛んな地域ではなく、これから新しいものを生み出せる「余白」のある場所で、新しい魅力をつくることに挑戦したいと思いました。

上砂川町には、まだ「ものづくりの町」というイメージはありません。だからこそ、自分たちの技術や発想を活かし、新しい商品や体験を一つずつ生み出していきけるのではないかと考えました。私は、この考え方を「職人型町おこし」と呼んでいます。

【職人型町おこしの実践例】

この考え方を実践するため、私はこれまで「職人からできる町おこし」をテーマに活動してきました。その中でも特に力を入れてきたのが、体験事業・教育・拠点づくりの三本柱です。

体験事業

木工やレザークラフトを通して、これまで延べ1,200名以上の方に、ものづくりの楽しさを伝えてきました。毎月開催している「手仕事の会」をはじめ、町内外でクラフト体験を実施し、ものづくりを身近に感じてもらう機会づくりに取り組んでいます。



木工体験

教育分野

令和8年度は、教育分野での活動にも力を入れています。小学校の総合的な学習では、6年生とともに、在校生へ贈る家具の企画・設計・製作に取り組んでいます。また、中学校では全校生徒を対象にレザークラフト授業を実施し、創造力や、物を大切にする心を育む活動を続けています。さらに、10月には木育マイスターの認定を受ける予定です。



ワークショップ風景

拠点づくり

協力隊の任期満了後を見据え、多目的工芸センター「趣芸館」の指定管理を目指しています。これまで工房として利用してきた経験を活かし、職人が日々ものづくりを行い、週末には誰もが手仕事を体験できる施設へと育てていきたいと考えています。

このほかにも、地域の記念品やお祝い品として、町の主要事業である「木と革の育つマタニティマークプロジェクト」の企画・製作をはじめ、マラニックの記念品や、ふるさと納税返礼品の開発にも携わっています。商品をつくるだけでなく、人とのつながりや、新しい地域の魅力を育てていくこと。それが、私の考える「職人型町おこし」です。



木と革のマタニティマーク



ふるさと納税返礼品予定の革製品とスツール

【町に根付く、ものづくりの拠点へ】

地域おこし協力隊としての任期は、今年度で満了します。しかし、私たちにとって、上砂川町での活動はここからが新たなスタートです。今後は、革職人である妻とともに「木と革のnanairo」として、この町に腰を据えて活動を続けていきます。

これまで培ってきた地域とのつながりを大切にしながら、体験事業・教育・商品づくりを継続し、趣芸館を、町内外から人が訪れる体験型観光の拠点へと育てていきたいと考えています。



革職人の奥様や愛犬と談笑する吉田さん

【職人が集まり、挑戦が生まれる町へ】

町内では、私たち以外にも、同世代のチーズ職人や菓子職人など、若い担い手が精力的に活動しています。

上砂川町は、これから新しい特色を育てていける可能性を持った町です。そこに、さまざまな技術や発想を持つ職人が集まり、それぞれの仕事を深めるだけでなく、職人同士が交わることで、新しい商品や体験、町の魅力が生まれていく。そんな好循環を、地域の皆さんとともにつくっていききたいと考えています。

町の余白を、魅力に変える。それが「職人型町おこし」。これからも上砂川町で、職人だからこそできる町おこしを、一歩ずつ実践していきます。